

STI for SDGs 文部科学省施策パッケージ【概要】

文部科学省
平成30年8月

STI for SDGs : 持続可能な開発目標達成のための科学技術イノベーション

【経緯】

- 2015年9月 国連において持続可能な開発目標 (SDGs) が掲げられた「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択
 - 2016年12月 内閣総理大臣を本部長とするSDGs推進本部が「SDGs実施指針」を決定
 - 2017年12月 「SDGsアクションプラン2018」SDGs推進本部決定
 - 2018年4月 「STI for SDGsの推進に関する基本方針」文部科学省策定 (文部科学省基本方針)
 - 2018年6月 「拡大版SDGsアクションプラン2018」SDGs推進本部決定、「統合イノベーション戦略」閣議決定
- ↓
- 2018年8月 STI for SDGs 文部科学省施策パッケージ

- 2030年に向けて時間軸も意識しながら多様なSDGsの課題解決に統合的に取り組み、STI for SDGs 施策を有機的・分野横断的に連携させることを目指した。
あらゆるステークホルダーや当事者の参画を重視する等のSDGsの原則を踏まえたSTI for SDGsの取組は、STIのあり方自身に革新を促す契機。
- 本施策パッケージに盛り込まれた施策について全体的・俯瞰的なアプローチにより体系的・戦略的に実施。毎年度の概算要求に適切に反映すること等により、
STI for SDGs施策の戦略的かつ着実な推進を図る。

【施策パッケージとりまとめの考え方】

- ◆ SDGsの17の目標やその下の169のターゲットの内容を念頭に、現在の文部科学省のSTI施策について、趣旨や期待される成果等を勘案しつつ、SDGs達成にどう貢献できるか、施策連携によりどう統合的な成果が期待できるかといった観点から、主な施策の整理・体系化を試みた。
(分野横断的・共通的な取組と、一定の分野のまとまりでとらえられる主要取組に分け、特に後者についてはSDGs達成への時系列を道筋として示すよう試みた。)
- ◆ 文部科学省の主なSTI for SDGs施策体系の見える化により、今後、様々なステークホルダーとの関わりや対話が促進され、協働・共創に繋がることを期待し、分野・セクターを超えた様々なステークホルダーを幅広く巻き込んだオープンな議論等を通じて、これらの協働・共創を推進する。そのための「場づくり」、「オープンプラットフォームの形成」に貢献したいと考えている。
また、推進状況等に応じ本パッケージをアップデートしつつ推進することが重要と考えられる。

※ なお、施策パッケージの推進に当たっては、文部科学省が中心となって取り組んでいる「持続可能な開発のための教育」(ESD)をはじめとする、教育・スポーツ・文化等の分野の施策との効果的な連携にも留意しつつ推進する。

目標9「インフラ、産業化、イノベーション」
目標17「実施手段」



分野横断的・共通的な取組

目標6「水・衛生」
目標14「海洋資源」



海洋・水

目標11「持続可能な都市」



都市・防災

目標7「エネルギー」
目標13「気候変動」



環境・エネルギー

目標3「保健」



健康・医療

国内取組

- 「STI for SDGs」と「地域で学ぶ次世代」を原動力とした地域社会課題の解決の推進
 - 科学技術イノベーションによる地域社会課題解決 (INSPIRE for SDGs)【31年度概算要求額: 3億円 (新規要求)】
 - SDGsの達成に向けた課題解決・共創プログラム【31年度概算要求額 (JST): 3億円 (新規要求)】
- オープンプラットフォームを通じた多様なステークホルダーとの共創の推進
 - 未来共創推進事業【31年度概算要求額 (JST): 38億円 (30年度予算額26億円)】

国際取組

- 開発途上国との共同研究と研究成果の社会実装の促進
 - 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)【31年度概算要求額 (JST): 28億円 (30年度予算額17億円)】
 - AMED: 5億円 (30年度予算額4億円)】
- 地球環境ビッグデータを活用した地球規模課題解決の促進
 - 地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム (DIAS)【事業の中で実施】

2030年に向け経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組み、「誰一人取り残さない」社会を実現